

市指定史跡 旧盛山村跡の御嶽

石垣市指定史跡 旧盛山村跡の御嶽の概要

新しい石垣空港は、2013（平成25）年3月7日に開港しました。空港入口は、国道390号から県道214号線へ分岐しています。分岐点にある信号から県道214号線を空港ターミナルに向かうと、すぐ左手に周囲から浮いたように見える、こんもりと草木が生い茂る場所があります。そこが、旧盛山村跡の御嶽です。

明治期に描かれたとされる古地図（沖縄県立図書館所蔵）に盛山村の絵図が残されており、この御嶽が描かれています。

盛山村は、1771年に八重山諸島を襲った明和津波の後、1785年に富崎村の集落がこの盛山に移転してできました。しかし、1835年頃には同村で疫病がはやり、納税義務のある者（正男・正女）は、男7人、女8人にまで減少したそうです。

1893（明治26）年8月に同村を訪れた笹森儀助は、廃村が予想される村に、この盛山村を挙げています。この予想のとおり、人口の減少は止まらず、民謡の「盛山どっけま（ドスケーマの歌）」には、衰退した盛山村にただ1人残ったドッケマという女性のもの悲しさが歌われています。

1908（明治41）年に八重山村の字となった盛山ですが、集落が廃されたのは、1917（大正6）年のことです。現在、空港ができて新たな賑わいを見せる同地には、このような歴史があり、旧盛山村跡の御嶽は、その証拠となっています。2009（平成21）年3月30日に、石垣市指定史跡となりました。



ドスケーマの歌（盛山のどっけま）部分

※ドッケマ・ドスケーマの表記のブレは、刊行物で方言を仮名表記する際の違いです

盛山村ナンガヨー ドスケーマデー ン ミヤルビデー ン マリドゥブレール
ブドゥルシリバン キョングンシリバン ドスケーマタンガヨー

（意訳）盛山村に ドスケーマという 女の子が 生まれておりました
踊りをしても 狂言をしても わたしドスケーマ人です

歌詞と訳は、牧野清2011「盛山村」『石垣島白保村以北の旧村々』より

旧盛山村跡の御嶽を見学なさる皆さまへ



旧盛山村跡の御嶽は、石垣空港ターミナルへ向かう道路沿いにあります。そのため、恒常的に交通量の多い場所となっており、交通の妨げになるような行為は、たいへん危険です。

現在、駐車場等は設置されておりません。

また、周囲は個人所有地もあるため、見学の際は周囲の皆様にご迷惑にならぬよう、ご協力をお願いいたします。